



目次

1. 環境報告書発表にあたって

「エネルギーシフトで地域に新たな仕事と雇用をつくる」

2. 同友会&事務局について

◇岩手同友会事務局理念

◇2013スローガン

◇岩手同友会事務局行動指針

◇2013基本方針

◇岩手同友会事務局2013 私たちが実現すること

3. 現状から生まれる課題（事例など）

4. 改善していること

5. おわりに



1. 環境報告書発表にあたって

～エネルギーシフトで地域に新たな仕事と雇用をつくる～

昨年10月に行われた中同協のドイツ・オーストリア視察に同行し、視界が180度変わりました。これまで環境経営への取り組みやエコという言葉や、さほど意識もせずに使ってきたように思います。資源を大切にするとか、職場で使う紙の量、日常の生活の中で節電に力を入れるとか、あくまでも部分的な取り組みであったように思います。

今回の視察で得た最も大きな衝撃は、私たちの豊かさの指標や生活の質までもが根本から問われる、「エネルギーシフト」という考え方です。エネルギーシフトは単なるエネルギー転換ではなく、文化そのものの再構築と言っても過言ではありません。

日本、とりわけ私たちが住む北東北の山間や沿岸部では、今後少子高齢化、人口減少が急激に進んでいきます。疲弊する地方の環境下で、購買人口も急激に減り、小さな商店や中小企業の多くが今後経営が継続できない状況に陥ります。さらに冬場、外気がマイナス10度以上になるなかで、ヒートショックなどによる事故（脳梗塞や心疾患）が47都道府県中最も多いという、非常に厳しい環境にあります。そんな中では、地域の健康で豊かなくらしを実現し、地域に根ざす若者を増やすことはできません。高校生をはじめとする、地元からの新たな雇用を生み出すことは不可能です。

現実的にも2011年の震災前までは、有効求人倍率が岩手県内で最も悪かった二戸市では、正社員の採用倍率は0.1倍前後でした。現在は復興に関係する公共投資等で1.0倍近くまで回復していますが、あくまでも一時的な数字の上昇に過ぎません。

そんな環境を大きく変えるのが、エネルギーシフトです。ドイツでは、エネルギーを電気だけではなく熱供給を根本に据えた考え方があります。エネルギーを軸とし、街づくりそのものに行政や市民が一体となって取り組んでいる姿がありました。徹底した省エネルギーと、様々な熱、電気エネルギー創出装置を駆使した、創エネルギーは、新たな仕事を地域につくります。

「どんなに外気が下がっても、室内が無暖房で17度以下になる家をつくってはいけない」という法律がドイツには、あります。実は岩手でも、氷点下の冬を無暖房で過ごせる家は作ることができます。それができる技術も設備も既にあります。しかもこれまでの建設コストを三分の一に抑えたものです。消費者も企業の側も目的を明確にし協力すれば、必ず実現できます。

ここに踏み込むことができるのは、地域に根付く中小企業しかありません。それぞれの地域に合った、それぞれの生活に合わせたものを要望に応じてオーダーメイドでつくる。技術を磨き人を地域に残し、地域になくしてはならない企業として根っこを生やす。大企業はできないのではなく、やらないのです。ここに私たちの活路があります。



中小企業憲章の基本理念には「中小企業が経済や暮らしを支え、牽引する。創意工夫を凝らし、技術を磨き、雇用の大部分を支え、暮らしに潤いを与える。～中略～難局の克服が求められるこのような時代にこそ、これまで以上に意欲を持って努力と創意工夫を重ねることに高い価値を置かなければならない。中小企業は、その大いなる担い手である」とあります。

岩手県内の事業所の99.9%が中小企業です。この1社1社がエネルギーシフトを意識し、地域の要望に応える新たな仕事を無数に作り出し、そこに雇用をつくり出していくこと。これこそがこれからの岩手、そして日本を救う鍵です。

私たちは3年前の大震災で多くのものを失いました。原発の爆発から、何が本当に大切なものか学んだはずですが、疲弊する地方の現況の中で起きた災禍。だからこそ、ここからエネルギーシフトを発信し、全国にうねりを起こしていく使命があります。

10年、20年後の将来の街の展望、ビジョンを描き、掲げる。そのための条例や学校も整備し、市民と共に子どもから年配の方まで共に豊かに暮らせる街を実現する。

この環境報告書は、私たち岩手県中小企業家同友会事務局にとっての将来へ向けてのエネルギーシフト指針を掲げたものです。この実現でこそ、岩手の未来をつくることを信じ、一歩一歩、歩みを進めて参りましょう。

最後に今回作成へ向けてご指導を賜りました、岩手大学人文社会科学部准教授中島清隆先生はじめ、何度も同友会へ足を運び、寸暇を惜しんで作成に尽力戴きました岩手大学王凱氏、上山咲野花氏、庄司健氏に心から感謝を申し上げます。本当に有難うございました。

岩手県中小企業家同友会
事務局長 菊田 哲



出典：岩手同友会 HP

ドイツの高気密住宅



出典：岩手同友会 HP



2. 同友会 & 事務局について

[岩手同友会事務局理念]

1. 私たちは 新たな時代を切りひらく企業家の皆さんとともに
岩手の未来に責任を持つ企業づくりをめざします
2. 私たちは ちがいを認め合い
高いところさして生きる人間になることをめざします
3. 私たちは 地域の頼れるオアシスとして
人間が人間らしく豊かに暮らせる社会をつくることをめざします

[2013スローガン]

「エネルギーシフト」で地域に新たな仕事と雇用をつくる

[岩手同友会事務局 行動指針]

いつも力を合わせて行こう
かげでこそこそしないで行こう
働くことが一番好きになろう
何でも何故?と考えよう
いつでももっといい方法はないか探そう



〔2013基本方針〕

〔企業づくりの実践と同友会活動〕

1. 会員の小さな声にも耳を傾け、その解決や実現へ向け全力を尽くそう～経営者の生き様を謙虚に受け止め、敬意を持って生き方から学ぼう
2. 科学的裏付けを持ったデータを集約、判断基準を持ち、安心して会員が悩みを話せる、相談できる事務局をめざそう
3. 会財政の安定と未来に展望の持てる事務局経営をしよう
4. 事務局も会員と共に同友会運動の主体者として意識しつつ、常に会員が主人公になる活動を心がけよう

〔事務局員の学び合いと人間としての成長〕

5. 自分のことは何でも難なく解決でき、どんな時でも、どんな場面でも会った人が感動し元気になる太陽の配達人をめざそう
6. 経営者の喜びや悩みを瞬時に感じるセンサー、共感できる人間力をつけよう
7. 事務局員一人ひとりが組織全体の増と強に責任を持ち自らの生きる砦を守り、人間としての成長を限りなく保証される基盤をつくろう

〔幸せの見える社会づくり〕

8. 岩手県全体の地域づくりの展望を掲げ、岩手の産業政策のことなら全ての情報が揃う事務局をめざそう
9. これから長く続く復興期に、あてにされ、より所となる事務局をめざそう

〔岩手同友会事務局 2013 私たちが実現すること〕

1. 会員が増えることこそ、私たちへの評価、信頼の証。
600名同友会を実現し、岩手全体、地域全体に連帯の輪をつ



くる。

2. 会員の皆様にとって、事務局がオアシスであるために、常に相手の立場に立って対応する。震災後の大変な時だからこそ、余裕を持った対応であてにされる事務局をつくる。
3. 一人ひとりに寄り添った広報、「あなたのための、あなただけの」細やかな、正確な情報伝達を心がけ、復興実現の一助となる。
4. 事務局内一人ひとりが、ゆとりが持てる労働環境をつくる。
5. 役割分担を明確にし、それぞれがそれぞれの仕事を、業務時間内に完了できる体制をつくる。
6. 月に一度は事務局全員で会員を訪問する。



同友会3つの目的

1. 会員の経験と知識の交流によって、企業の自主的近代化と強靱な経営体質をつくります
2. 謙虚に学びあい、現代の経営者に要求される総合的な能力を養います
3. 中小企業の経営を守り、繁栄させるために経営環境の改善につとめます

岩手県中小企業家同友会



3. 現状から生まれる課題（事例など）

－岩手県中小企業家同友会事務局の現状とそこから生まれる課題－

はじめに、岩手県の中小企業の基盤ともなっている岩手県中小企業家同友会事務局内の環境に対する取り組みの現状と課題を見つめてみる。

① 現状

□事務局で働いている一人一人の事務局・プライベートでの取り組み
→事務局の社員1人1人が「環境のためにどのような取り組みを行っているのか」ということを少ない社員の中で分かっていないことが多くあった。そのためそれぞれの取り組みや考えを知り、共有し合うことで1人1人の環境に対する意識がさらに高まり、お互いに高め合いながら環境に対する取り組みをすることができる。

菊田哲

○事務所で取り組んでいること

- ・休日出勤の時はなるべく暖房は切り、厚着をする。
- ・電気は最小限にする
- ・事務所で必要な連絡事項を印刷する時はコピーの使用済みの裏紙を使う

○プライベートで取り組んでいること

- ・使用しないコンセントは全部抜く
- ・便座の電気は使用せず、カバーを暖かいものにする。
- ・電気の明るさを調整する
- ・テレビを省エネモード
- ・家族で話し合い省エネに関して決まりをつくり実行する。

木村恵子

○事務局で取り組んでいること

- ・使用済の書類を整理する時、ホッチキスの針を取り外し整理
- ・書類をまとめて処分する時に使用するひもは紙ひもを使用
- ・休日出勤する時の電気は必要最小限にする。
- ・使用済の書類はメモ様紙に使用する
- ・暖房は極力21～22℃に設定する。

○プライベートで取り組んでいること

- ・使用しない主電源は抜く
- ・プラ、紙は必ず分別する



- ・着古した綿素材のシャツやTシャツは切り刻み汚れのふき取りに使用して最後まで使い切る
- ・買い物の際にエコバックは必ず使用する

吉田ルミ子

○事務局で取り組んでいること

- ・印刷する時は使用済の用紙を利用し印刷
- ・使用した書類は裏紙に使用するか、自分のメモ用として使用
- ・使用済の書類を整理する時、ホッチキスの針を取り外し整理

○プライベートで取り組んでいること

- ・主電源はできるだけぬく（電子レンジ、温風ヒーター、炊飯器）
- ・電気はこまめに消す
- ・洗濯する時はお風呂のお湯を使用
- ・お風呂は時間を開けずに入浴
- ・こたつは電気を使わず温風ヒーターの熱を利用

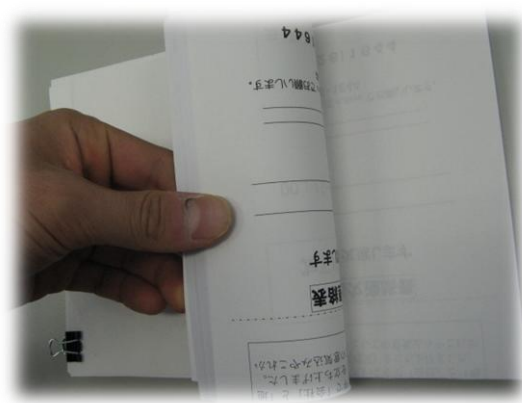
熊谷由美子

○事務局で取り組んでいること

- ・印刷物の裏紙をメモ様紙などに使用している。
- ・ゴミの分別

○プライベートで取り組んでいること

- ・スーパーなどにゴミのリサイクル分別をしている。
- ・家を留守にする時は使用しない電化製品のコンセントを抜いている。
- ・洗濯にお風呂のお湯を使用

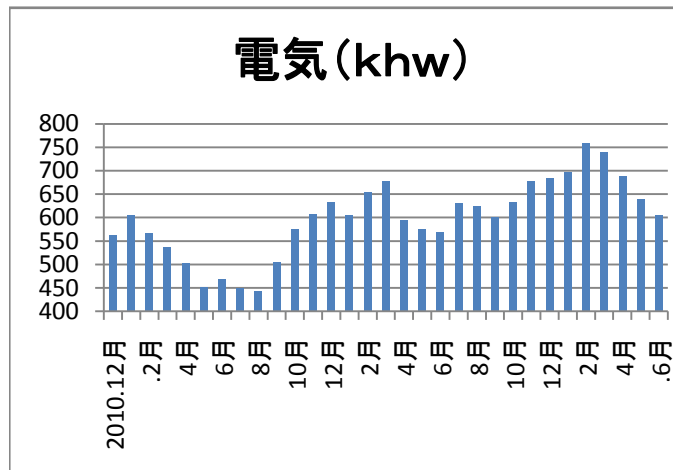




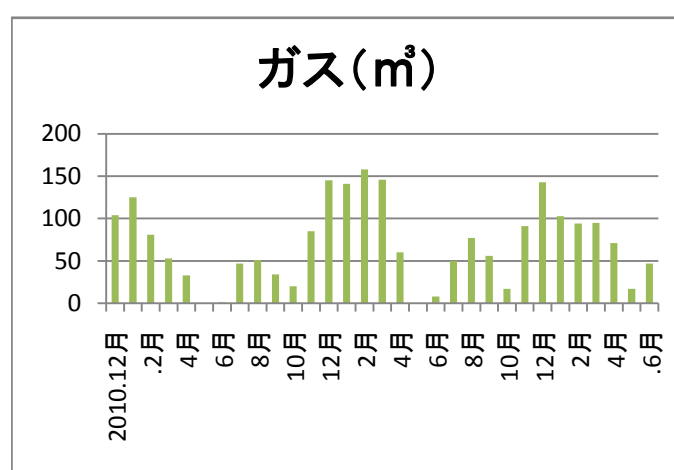
□事務局全体の現状

○事務局の光熱料

2010年12月～2013年6月の電気使用量推移



2010年12月～2013年6月のガス使用量推移



・2013年1月～3月は2011年と2012年の1月～3月と比較しても、電気(kwh)が高くなっている。

→2013年1月～サーバーを入れ24時間稼働するようになったため高くなったと推測

・ガス(m³)に関しては2013年1月～3月と2012年1月～3月を比較すると圧倒的に2013年の方が安くなっている。

→2013年1月～サーキュレーターを導入したため、大幅な削減をすることができた。

・2011年・2012年・2013年とも12月～3月の冬場にかけては電気(kwh)・ガス(m³)ともに高くなる。

→冬場冷えてくるとファンヒータや加湿器を使うため高くなる。

・電気に関して7月～9月にかけて冷房を使う機会が増えるため同様の結果も表れている。

② 現状から生まれる課題

事務局一人ひとりの取り組みを調査してみて、それぞれの環境に対する意識は高く、小さなことであっても自分ができることをそれぞれがしっかりと取り組んでいた。そのためこの結果を受けて、他の人が行っている取り組みをもっと自分の取り組んでいたことに取り入れ、これからはみんなで共有しながら、事務局全体が一丸となってコツコツと環境負荷の少ない取り組みを積極的に行っていくことが今後の課題である。

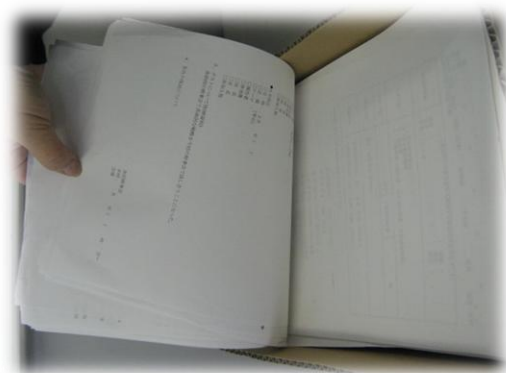
そして事務局の過去3年間の光熱料の変化をみると、サーキュレータを導入したことでガス代の大幅な削減をする一方で、サーバーの24時間稼働により電気代は大きく上昇するなど事務局全体で何か大きな導入をした際などに光熱料の増減に大きな影響が表れていることが分かった。そのため今回取り上げた冬場の光熱料は、暖房等の影響によって光熱費が他の季節よりも高騰している現状があるため、事務局で今回導入した暖房の空調送風口



にファン（第4章で詳しく説明）のような事務局全体での大きな取り組みも今後は大きな課題である。

しかしながら、空調送風口のファンのような大きな導入には大きく出費もかかってしまうため、事務局全体の一人一人の意識は高いので、事務局全体で環境のための話し合いの場を設け事務局全体で一丸となって「何のために取り組むのか」という原点から見つめ直し「どのようなことに取り組んでいくのか」「その取り組みを持続させていくにはどうしたらよいのか」など具体的なことについて考えていく場を作っていくことも重要ではないかと提言したい。

そして事務局で環境に向けた取り組みを積極的に行い、「事務局がやっているから自分たちの企業でも取り組もう」と思ってもらえるようお手本となるような存在でありたい。



—事務局からみた中小企業全体の現状とそこから生まれる課題—

事務局という立場から考える中小企業の現状と改善点について3つの中小企業を例に挙げ説明していきたい。

① 現状

[case1]建築関係の中小企業

暖房をあまり使わなくても部屋が暖くなるように「壁の厚さを厚くする。木材のチップを入れる。」などの工夫をした断熱材や壁の作り方を事務局が提案してもあまり興味を示してくれなかった。



最近では多くの中小企業が冬場の寒さをしのげるような暖かい家作りを目指していくようになった。

しかし、暖かい家作りに向けてどう対応していくべきなのかが分からず、なかなか進んでいないのが現状。

[case2]自動車钣金塗装の中小企業

車の重量は大きいため「環境にやさしい車は作れないか」と事務局が提案しても、それは



「大手のメーカーがやること」と考えていたため、あまり積極的に取り組んで貰えなかった。



しかしながら最近では、「自社で電気自動車を買って解体をして研究してみよう」と動き出した中小企業も現れ、多くの中小企業が環境にやさしい車がどんな性能を持っているのか研究をし始めたり、自分たちができることから始めようという動きに変わっていった。ところが中小企業で研究しようとしても、それができる設備が整っていなかったり、社内に話し合いをするためのみんなが集まれる場所がない企業もあった。

[case3]お菓子などを製造する中小企業

ギフトのための包装紙が多いため、箱だけでもギフトとして十分な包装箱を作るような提案をしても、実際に取り組んでくれる企業はわずかで、やはり企業としても送る側の気持ちを考えるとおつつみのための包装紙は重要であり、日本に古くからあるおつつみの文化をどのようにして残していくのが難しい問題であった。



しかしながら最近の岩手県の中小企業の事例を例に挙げてみると…

八木澤商店様の醤油を入れる包装箱のように包装箱だけでも十分相手にプレゼントとして送ることができるような包装箱を作る企業が増えつつある。

② 現状から生まれる課題

伝え続けていくことが重要！

岩手県中小企業家同友会では、先ほど例として挙げたようにそれぞれの中小企業に対して様々な提案をしていくことで、始めはあまり興味を示してくれなかったことでも伝え続けていくことで動きは遅くても、中小企業が改善に向けて取り組むようになった。そのためこれからも伝えつづけていくことを心掛け、中小企業が動き出そうとした際は、上記で挙げた自動車钣金塗装のような場合には、現状を踏まえそれをサポートできるような存在であることが今後の課題である。

—まとめ—

事務局では、

「中小企業の意識が変わると地域みんなが変わるきっかけになる」

と考えているため事務局の環境に対する意識がさらに高まり、それを中小企業にどのように伝え続け、変わるきっかけを作っていくのがこれからの大きな課題である。



4.岩手県中小企業家同友会として改善していること

ここでは、岩手県中小企業家同友会事務局の取り組み等について紹介していく。400社の企業が所属するという特殊な組織体であり、会議や情報の提供が中心となるため、具体的な環境への取り組みを各企業にアドバイスするという事は無い。しかし、事務局としてあるいは同友会として現状からの改善・環境への取り組み、提案を行う事で、企業に変革をもたらし、地域の未来のために前進できるエネルギーシフトこそ豊かな地域をつくる事ができるはずだ。その改善できる点をこれからいくつか紹介していく。

○事務局としての取り組み

これまで、事務局としては取り組むべき課題の洗い出しや改善という事を意識的には行ってきたことはなかった。これは、「事務局」は一般の「企業」とは違う性質上やむを得ないと勝手に決めつけていたからだ。しかし、岩手大学の学生による協力も得て、「情報発信」ばかりではなく自分達からも行動しようと思いついた。

[case①]事務局員それぞれの取り組み

以前の項目で各事務局員がこれまで個人的に行ってきた環境への取り組み紹介があったが、普段家庭や生活の中で行っていることがあり、無意識に実践しているのだと改めて感じた。ぜひ日々の生活の中や企業活動の中で参考にしてもらえればありがたい。

[case②]学生に指摘されたことによる改善

今回、岩手大学の学生が参加してくれたことにより発見できた点や見つけることができた点があった。特に、指摘されてすぐに行動したことがあった。

岩手大学の学生センターの空調送風口に付いている風力によって回転するファンに関する情報を貰い、さっそく取り付けるとすぐに目に見える効果が表れた。

「ほんのりと暖かい」

実際、設定温度を2℃以上下げ、足元の底冷えもかなり改善された。

23℃設定+ストーブ+サーキュレーターでも寒い

→21℃設定+サーキュレーターで寒くない データではないが、実感で変化有り！！





○岩手県中小企業家同友会としての取り組み

私たち岩手県中小企業家同友会では、事務局長の菊田がドイツのフライブルク市へ視察に向かい、先進的な地域づくりや特にも「エネルギーシフト」という考え方について学んできた。私たち岩手同友会として行う事ができる環境への取り組みとして、加盟企業様への情報提供を行う事ができる。今回はその一環として、世界の動きという観点からドイツ視察で学んだ「エネルギーシフト」について紹介していく。

○そもそもエネルギーシフトとは？

エネルギーシフト：考え方や生活様式、生き方などすべてにおける転換のこと
⇒つまり、持続可能な社会づくりのための考え方なのだ。

○実例【ドイツ・フライブルク市の取り組み】

・車が要らない

⇒インフラ整備などによって通勤や通学、移動に係る交通手段がしっかりとしているため、マイカーを持つ必要が無い。これにより、排気ガスに伴う大気汚染やCO2排出を削減することができる。

・家づくり

⇒特に驚いたのがこの取り組みだ。

フライブルク市の住宅は、ほとんどが年間を通して17～18℃に保たれている。これは、日本ではあまり取り組まれていない建築構造様式であろうと思うが、壁の厚さを40～60cmという重厚なものにし、その中に様々な素材の断熱材を入れている。また、サッシを三重にし、パッキンなども特殊なものにすることでより気密性を上げることができる。窓はすぐに改善できる重要な部分である。これだけの構造でどのくらいの効果があるのかというと、たった2人いるだけで暖房も冷房もいらぬ。

例えば、1つの部屋に2人いるとする。1人が発する熱量は100wであるため、
 $100w \times 2 = 200w$ …特に暑くも寒くもない気温になるそうだ。

→ここに蝋燭1本立てるだけで上着もいらぬくらい暖かくなる。

上記のような、エネルギーの大量消費に頼らない仕組みづくりがエネルギーシフトの良い例だろう。



○なぜ情報発信するのか

岩手県中小企業家同友会では、「エネルギーシフトについて県内の中小企業がどのような取り組みを行っているか、行う事ができるのか」ということについて考え、情報提供している。今回のメインテーマでもある「エネルギーシフト」は環境問題だけでなく、地域が抱える問題についても個人の価値観を改めて考えることができるため、また皆さんの意識を少しでも良い方向へと変えるお手伝いをするために、問題提起をする。

「生活の豊かさを変えることができるか…？」

ドイツでは、ほとんどの店舗が17：00には閉店する。日本では、24時間営業や深夜営業はもはやスタンダードであり、その便利さを容易には捨てることはできないだろう。また、自動販売機などもほとんど見かけない。生活の豊かさを一度上げてしまえば、落すことはかなり大変な作業になる。

「物質的な豊かさが個人の豊かさにつながるのか…？」

モノが簡単に手に入る世の中は、確かに豊かではあろう。しかし、それで個人として社会として幸せなのかと言え、そうではないと私たちは考える。1人1人の少しずつの「我慢」が、やがては大きな「取り組み」として現れてくる。これが日本で広がっている環境への取り組みの特長である。しかし、部分的な取り組みではもはや手遅れであり、社会全体としての取り組みが喫緊の課題となっている。その現状を打破するのが「エネルギーシフト」の考え方なのである。インフラなどの社会資本から市民の住宅など、社会のいたるところにおける効率化や環境への負荷、エネルギーの使用法を社会が一体となって変えていくことが、エネルギーシフトの大きな考え方である。

「中小企業がどんな取り組みを行えるか…？」

第一に「先入観を捨てる！」ということが重要であろう。この最初の壁が実は重要で、ここを乗り越えることによって劇的に社会は変わるだろう。そして第二に、情報を仕入れることで価値観が広がる。この2点への取り組みをスムーズにするために、私たち事務局による情報発信を行うのである。エネルギーシフトは持続可能な社会づくりを実現する考え方であるから、私たちだけでなく皆さんにも考えていただく必要がある。よりよい岩手、日本を実現するために、一緒に考えていきましょう！！



5. おわりに

今回の訪問を通じ、「環境報告書」の作成に当たって私達が強く感じたことは、岩手県そして日本の企業の中の大きな基盤となっている中小企業の高まりつつある環境に対する意識や行動をこれからどのようにして更に高めていくのが岩手県中小企業同友会事務局そして日本全体に向けられた大きな課題であるということです。そして、それを踏まえた上でこれから環境問題を考えてく中で大きなテーマとなる「エネルギーシフト」に向けた取り組みを中小企業が先頭に立って取り組んでいるような社会の形成を目指していくべきだと思います。なぜなら今回の何度も岩手県中小企業家同友会事務局様に訪問させていただく中で強く感じたのが、中小企業はその地域にとって重要な欠かせない存在であり、地域に強く根付いているため、そんな中小企業が地域に合わせたドイツのような「エネルギーシフト」(第4章に詳しく記載)を進めていくことが日本が抱える環境問題の大きな解決策になると私たちは感じたからです。

そして今回は、岩手県の中小企業の軸となる事務局の環境に対する取り組みも調べさせていただいたところ、一人一人の意識が高くそれぞれが様々な取り組みをしていましたが、その環境に対する取り組みを共有することは少なく、光熱費等を調べさせていただいても環境に対する取り組みが十分であるとはいえないと感じました。そのため今回作成したこの「環境報告書」を通じて事務局の中で環境に対する取り組みをもっと共有し合い、事務局内の環境意識・行動が改善に向かっていくきっかけとなって欲しいです。そしてこの「環境報告書」を通じて私たちが最も伝えたかった「エネルギーシフト」に向けた取り組みについて中小企業が少しでも考えるきっかけとなることを目指して今回この「環境報告書」を作成させていただきました。

最後に今回、「環境報告書」を作るに当たってお忙しい中、多くの貴重なお話や多大な協力をしてくださった岩手県中小企業同友会事務局長 菊田哲様、事務局次長 木村恵子様をはじめとする岩手県中小企業同友会事務局の皆様、本当にありがとうございました。事務局内の環境への取り組みだけでなく、菊田様が実際に視察したドイツから学んだ「エネルギーシフト」についてや「これからの中小企業全体がどうあるべきなのか」など幅広いお話をしてくださったおかげで、多くの視点から環境問題についてさらに深く考えることができ、今回このような「環境報告書」を作成することができました。また、実際に私たちが環境への取り組みとして提案させていただいた「空調送風口のファン」に関してもち早く事務局内に取り入れていただくなどいつも私達に真摯に向き合ってくださいました岩手県中小企業同友会の皆様と「環境報告書」をご一緒に作成でき本当に光栄です。心から感謝申し上げます。

岩手大学人文社会科学部 2年 法学・経済課程 庄司健

環境科学課程 王凱、上山咲野花



【環境報告書】

岩手県中小企業家同友会事務局



菊田事務局長はじめ作成にご協力いただいた事務局員の方々と受講生



取材・作成

岩手大学人文社会科学部環境科学課程「環境マネジメント実践演習」受講生